

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
大越 素風 絵夢 みづる	破れ蓮	月を 佳月 たくみ くるみ ひろ志 マスミ 六弦 かれん 梗舟	きいち 蝸牛	蝸牛						総太郎	暮風				
濃く淡く若葉の影す石畳 石畳に若葉の影と絞り込んだ表現がシンプルでいいと思います。石畳に映る斑模様様の若葉の影が見える。緑のグラデーションを上手く表現している。光陰や風の動きも感じられる、清々しい初夏の一句。	柔らかき風の野づらを揚羽蝶 野原を飛ぶ蝶が見える。	戸を少し開けて燕とまた暮らす 燕と暮らす幸せな家です。1年ぶりの燕との再会。「また」がいいですね。また暮らせることへの感謝。戸を少しで家の様子も覗えます。燕に対する温かい思いやりが感じられる。毎年、燕の巣を見守る家人の優しさにはホッとし、少しとまたがよい。優しい心配りが嬉しい。最近燕を見かけなくなつた。家の中の燕の巣。また来てくれたと歓迎する。気持ち、優しさが伝わる。毎年楽しみにしているのが良くわかります。	麦の穂のそよぎに見ゆる風の様 風の形、強弱と色々あるのを風の様と上手に読んでいます。麦畑を渡る風の様子が見える。	早緑の葉の重なれる若楓 「早緑」の語と季語がよく響き合う。	お喋りのざわざわ聞こえ花は葉に	隣家より鼻歌交じり夏の宵	顔真つ赤甘酒呑みし下戸な我	アカシアの花がセンター防砂林	朝露も涙も拭ふ青葉風	囑託の仕事に慣れし四月尽	乙女らの長き脚線夏隣 季節が感じられる。	口遊ぶドレミファソラシ柿若葉	蓮の花開く微音と微動かな	春雨や明るく音も無く濡らし	衛
安田蝸牛	ひろ志	ありぎりす	松田素風	破れ蓮	森佳月	新井のり子	宇田靖之	しーしー	岩清水彩香	良月	高島郁夫	檜鼻ことは	幸子		

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
俳爺 ひろし くるみ 田猫	朝香	しんい			ことは		彩香 新井 あらか			順一	彩香 音思 あらか	瞳人 一駄歩			
増築の表札ふたつ吊忍 二世帯が入るための増築でしょう。玄関の表札と季語がぴったり。若夫婦のために増築、新たな名札が掛けられた。二世帯になったというところでしよう。風通しのよい季語が、気さくな二世帯住宅を思わせる。	十薬やきざはし暗き男坂 十薬は地味な花ですが、小暗い坂の両側に咲いてる様子は美しいでしょうね。	手術して視力戻りぬ青山河 季語がいい、手術後の鮮やかな視界。	菖蒲湯や鉢巻にする禿げ頭	長袖の腕まくりたき薄暑かな	五月生父母に感謝の八十路かな 風薫る五月、いい月にお生まれになりましたね。	落味噲を好みし妹は今亡き	鯉のぼり不平不満のなき空を 悠々と泳ぐ鯉のぼりに子の成長を未来の平和を願う想いが中七下五に見えてきます。今、誰もが願うことを鯉のぼりに託す。きつと文句の付け所がない快晴で、鯉のぼりがいい感じにはためく強さの風が吹いているのだらうな、と思いました。	招き猫代わりの門に目高かな	走り梅雨突張り棒を締め直す	母の日の新教皇に乾杯す	起立礼着席声も更衣 制服が夏服に変わったら号令もまつさらに聞こえる着眼点に感服！着想の新鮮さに惹かれました。「声も衣替」という比喻表現に感服。何気ない号令すら、季節の移り変わりに応じて春の華やかさ、初々しさから、夏の爽やかさ、澆漓さへと変わっていくのでしょうか。	子育ての燕見守る逆さ傘 あはは、ゆつくり眺めましょう。燕を暖かく見守っている風景が伝わります。	つみかさね崩るる兆し薔薇の箱	里山に俯瞰の生地柿若葉	
新 暦 文	しんい	邦治	一駄歩	俳爺	いさむ	和田イチ子	森下山菜	秋谷風舎	網野月を	岩本展平	神谷たくみ	光雲2	みづる	高原ひろし	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
一葉	くるみ		ことは 梗舟 允孝 マスミ 彩香 幹子 ひろし 順一 暮風 たくみ ありぎりす	ヨネヤマ 允孝						かげろう 朝香		暦文 梗舟 絵夢	良月 幹子		
はつなつや駆けるをさなの膝の傷 おさなの膝の傷に夏の訪れを感じた手柄。	青嵐産卵鯉のしぶき多々 この時季の鯉の跳ねる音、飛び散る飛沫の臨場感が伝わってきます。	メンデルに喰わせやりたやエンドウ飯 この時季の鯉の跳ねる音、飛び散る飛沫の臨場感が伝わってきます。	記憶より小さき母校風薫る 母校訪問、懐かしい記憶が蘇ってこられたことでしょうか。幼い時の母校の記憶、大人になって見ると大分違って見えます。時をおいて訪れた記憶、幼い日々が蘇る。小学校なら尚更です。季語も効いてます。いづれ廃校になってしまいうんどうか、子供のころの思い出はこうですね。久しぶりに訪れた母校。記憶よりも小さかった。時の流れをしみじみ感じている。子どもの頃の記憶が、大人になって実際に見た時にこのように感じることはありますね。	やはらかに風をくぐらせ柿若葉 くぐらせが良い。初夏の柔らかな風を受けて柿の若葉の喜びが伝わってきます。中七の風くぐらせてがいいですね。幼い時に大きく見えたものが小さい事に驚いた同じ経験があり、若葉の季節の爽やかな一風薫る」に響いてます。	紫のアイリスの群れ白ひとつ 大越マーガレット	ふるさとは雲追ふ風に辛夷咲く 後藤允孝	助けての娘すくはぬ棒振虫 瞳人	薄紅の薔薇のトンネル妻とゐて 総太郎	代掻きや牛の声と香過ぎし日に ヨネヤマカローリング	ふぞろひの園児はじける若葉風 絵夢	風薫る萌葱に染むる和菓子かな 渋谷きいち	緑陰に出発進行縄電車 龍野ひろし	麦秋や塩たっぷりの握り飯 情景が眼に浮かびます。出発進行が良い。子供たちの弾む声と景が鮮やか。	新緑や車輛のひかる風の海 美味そうですね。塩が効いています。この季節の爽やかさが感じられ、また塩結びもおいしそうですね	立野音思
朝香	山川 充	霜里	荒一葉	大束暮風	大越マーガレット	後藤允孝	瞳人	総太郎	ヨネヤマカローリング	絵夢	渋谷きいち	龍野ひろし	くるみ	立野音思	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
				きいち しーしー 朝香		マスミ	良月 ひろし ありぎりす	佳月 瞳人	光雲2					月を 新井 かれん 六弦	
水虫は親指襲ひ他指襲ひ	薄赤の花鮮やかに薄暑光	八本は腕か足かと蛸悩む	薄暑の日人のまばらな選挙力	ひかえめに咲いたつもりよ白牡丹 作者も白牡丹なんです。美人が謙遜して。赤紫やピンクの大部分の牡丹は華やかです。その中で白牡丹は逆に目立ちます。この句はユーモアがありますね。	ゆうべ来て今朝朗らかにほととぎす	神輿かき追ってカメラも右左 神輿をかつぐのは、しんどいが、誇らしい。そんな姿を撮ろうとしてカメラも忙しい。	ドアノブに裾分けのメモ笹粽 裾分けが効いてます。最近少ないから。ほのぼのとした日常が伝わります。	昭和の日家族写真のすまし顔 昔は写真館で家族写真を撮りましたね。いい写真ですね。もつと撮っておけばよかった、いや、こちらのこと。	睡蓮や池に傘さす想ひ人	風薫るトランジスタを海へ向け	網棚に残されし薔薇香り立つ	落書きはもしやあの人あいの風	奥能登のあばら屋に立つ鯉幟	まず回し正面探すかき氷 何処から攻めようか探しています。遠い日の夏の思い出が蘇る。かき氷の正面を気にしなかったが視点が面白い。さあ行くぞと言う気合いがよく出ていますね。	
石川順一	雪待月田猫	染谷風子	かげろう	癒香	里もりを	横井あらか	丸山マスミ	佐藤幹子	平野 楽	石関六弦	かれん	青木鶴城	岡崎梗舟	小林土璃	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
佳月 総太郎 暦文 土璃	破れ蓮	癒香	破れ蓮 土璃 蝸牛 霜里 絵夢 一駄歩	大越 良月 素風 鶴城		ことは 暦文 音思 ありぎりす しーしー 霜里 みづる				ヨネヤマ 月を			かれん		
五月晴れ母でいる日の薄化粧 母の日でしょうか？母だと何故薄化粧なのでしょう？娘の晴れの日には遠慮したのでしょうか？気になる句です。薄化粧がいい。お母さんはお母さんで、気を使っているののである。	巡礼の道に注ぐや新樹光 遍路道に注ぐ新樹の光が感じられる。	夜更けまで天下祭りの笛の音	朝日浴び葉擦れ華やか新樹かな 朝の光と葉音が聞える。	母の日も仕舞湯に入る母なりき 母の慎ましやかな様子が目に浮かぶ。お母さんとはこういうものだと、端的に表現している。母の謙虚な姿を上手く表現している。見過ごしてしまいう日常の様子にも有り難さが。令和になっても控えめな昭和の母が浮かぶ。母のありがたさがわかります。	絵心の有らばと想ふ夏野菜 描きたいですよね。下手でも描きましよう！絵心が効いています。野菜や果物の絵画ですね。見事な夏野菜の姿が想起される。きつとご自分で育てた夏野菜だろうと想像します。	カラー二本黒板わきの掛け花瓶	ごめんねの言葉が言えず草むしり 草むしりが、何ともいい味を出しています。誰しもが素直になれないです。向こうから声をかけてくれるのを待つ。背中に、下を向いて、黙々と。その一言が出ないもどかしさを目の前の作業で紛らわせているようだ。夫婦喧嘩でしょうか。気持ちがよくわかりました。素直に謝れない時もありです。そのお相手はどなたでしょう。想像が。かきたてられます。草むしりが効いています。	老夫婦語り合いし端居かな	竹秋や乳飲み子眠る乳母車	花びらの数だけ孤独ぼうたん咲く 花びらの数だけ孤独と言いつたのが良い。「ぼうたん」はね。	バレリーナのアンデウトロア夏近し	庭桜見事に咲けど一人かな	薫風や上り列車を待つホーム 薫風がホーム全体を満たしている感じがする。	小さき庭なれど夏草煩はす	幸子
ありぎりす	安田蝸牛	ひろ志	森 佳月	松田素風	破れ蓮	しーしー	新井のり子	宇田靖之	高島郁夫	岩清水彩香	良月	衛	檜鼻ことは		

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
	素風	ひろ志	光雲2 俳翁		光雲2		かげろう			きいち しーしー ひろ志 正信		一葉	暮風		
中世の石垣残る青棚田	幼子の髪をくすぐる若葉風 優しい季語のニュアンスが感じられる。	虹を背に櫂をしづかにゴンドリエ ベニスのゴンドラ観光の一コマ。	開山祭ホルン高らか梓川 梓川とあるから上高地のウエストン祭でしょう 景が目の当たりに浮かびます。	真向いの空家空木の真っ盛り	江の島に早もサーファー夏きざす	連休や残り一日藤の椅子	目刺し焼く丹下左膳の心かな 煙が目にしみます	ノラ老いて薔薇のアーチの繁るまま	鶯や牧を嗜むホルスタイン	大西日ビルは地球に刺さってる 西日は部屋の奥まで差し込む、確かにビルは刺さっている感じ。下五が新鮮 真夏の午後の強烈な陽射しに耐える高層ビルである。「建っている」を「刺さっている」との表現が秀逸。	百までとあつけらかんと新茶かな	鳶の輪の晴れ間を渉る五月かな 「晴れ間を渉る」の措辞が的確。	植田はやいのち耀ふ風ふきぬ 田植がすんだばかりの若い苗の様子がよくとらえられている。	薫風や女結びのすぐ解け	
邦治	新 暦 文	しんい	一駄歩	和田イチ子	俳翁	いさむ	網野月を	森下山菜	秋谷風舎	神谷たくみ	岩本展平	高原ひろし	光雲2	みづる	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
一駄歩			ヨネヤマ 允孝 総太郎 音思	鶴城		俳翁 土璃 かげろう 正信	たくみ みづる		しんい			田猫		新井 正信	
祭果て牧場へ帰る武者の馬 馬のやれやれと言う声が聞こえてくる。	ファインダー一瞬過ぐる若葉風	どこまでも高みめざせる山の藤	母の日や遺影と分け合うよもぎ餅 遺影と分合うが良い。今は亡き母と分け合うよもぎ餅、遺影の写真が微笑んでいたでしょう。お母様の遺影の前で餅を食べられているのでしょうか？しみじみとした気持が伝わってきます。	葉桜やおほかたは老化と合点 どんな人物も花は葉に、合点です。	甚平着て昭和の自模りゆうらりと	居間の絵をモネからダリへ初夏の風 居間の夏への模様替えに題材と季語がコラボしている。夏はやつぱりダリですね。季語と画家の距離感が良い。現実には複製品でも俳句になればいかにも本物の様に思える。	藤棚の人去りてより匂ひ濃し 実感です。外から鑑賞したいものです。風通しが良くなり、馥郁たる香が更に増したようだ。	城山の夕日輝く代田かな	孫よそに視線泳げり夏の浜 お孫ちゃんよりギヤルが気になる？お若いですね！	ドンドコドン新樹の中を鼓笛隊	湾風ぐや湖面と紛ふ五月晴れ	薫風や嗣治の描く乳白色 あの白い肌が季語と響きあう、涼やかな句。	補助輪のなき自転車や街薄暑	完璧な嘘つきとほす聖五月 これは男がつく優しい嘘か？聖母マリアを讃える「聖五月」と「完璧な嘘」との取り合わせが魅力。	くるみ
小林土璃	朝香	大東暮風	霜里	荒一葉	瞳人	大越マーガレット	後藤允孝	ヨネヤマカローリング	総太郎	龍野ひろし	絵夢	渋谷きいち	立野音思		

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年五月
癒香							しんい 瞳人 一葉			癒香	田猫	霜里	あらか 順一	大越	
緑陰を滑るせせらぎ轟けり 視覚、聴覚に感じる。	卯の花や鎮守の杜に紅袴	汗あゆる胸の炎を意識して	麦秋や金色（こんじき）の穂に風渡る	蜘蛛の巣や朝日を受けし水雫	君に逢ふ初めての島春の虹	明朗に鳴くや今年のほととぎす	また夫に惚れ直しけり神輿かき 神輿を担ぐご主人の男らしさに日頃とは違う魅力を感じたのでしょ う。そうか、うむ。担ぐ神輿の夫に惚れ直す、良かったですね。	夏つばめ三角屋根の駅舎へと	クローバーの花冠はまだ褪せず	走り梅雨道にしばしのにわたずみ しばしのわたずみの表現が良い。	蜥蜴出づタツプダンスの如き舞 トカゲのあの動きをよく表している、秀逸な写生の句。	空豆や姫よ姫よと育てられ 一つ一つ真綿に包まれて、過保護ですよね。	かたつむり地球の果の遠きこと 一読して「これはびつくりだ」と声に出してしまった。かたつむりの 視点で世界の広さを実感した気がした。	五月田や雲を千切りみずかがみ ドローンから見てるような五月田の美しさ。	
雪待月田猫	染谷風子	石川順一	癒香	かげろう	丸山マシミ	里もりを	横井あらか	石関六弦	佐藤幹子	平野 楽	岡崎梗舟	かれん	青木鶴城	山川 充	